４．「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法の開発

１．学力・学習状況に関する分析・検証手法を活かした学校改善のねらいと特色

各学校，教育委員会等において，調査結果を分析・検証し，教育や教育施策の改善に取り組む際に参考となる手法として，「『全国学力・学習状況調査結果チャート』を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法」を開発した。本手法は，教科に関する調査及び質問紙調査の結果を，「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いて表現することにより，視覚的に各学校等の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握することができるようにし，全国的な状況等との関係において自らの教育及び教育施策の成果や課題等を具体的に把握するための分析・検証を支援することをねらいとしている。

この手法が各学校等において活用されることにより，それぞれの成果や課題等に応じた具体的な改善方策等が作成され，改善が図られるとともに，そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立につながることが期待される。

（１）ねらい

全国学力・学習状況調査の目的には，各学校，教育委員会等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し，その改善を図り，併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげるねらいがある。このような調査の目的を生かすためには，教育委員会等の支援のもと，各学校において自らの児童生徒の学力・学習状況等を全国学力・学習状況調査の結果（以下「調査結果」という。）から多面的な分析を行うことで明らかにし，それらを踏まえた上で，次なる学力向上に向けた取組や授業改善，学校運営の改善等の計画や具体的方策を作成し実行することが重要である。

このため，調査結果の分析・検証手法の一つとして，各学校等における教科に関する調査や質問紙調査の結果についてスコアで表現した「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いる児童生徒の学力・学習状況に関する分析・検証のための手法を開発した。

（２）特色

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法は，教科に関する調査及び質問紙調査から算出した各学校等のスコアを，各学校等における学力・学習状況の特徴を表す数値として「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いて表現することにより，視覚的に各学校等の児童生徒の学力・学習状況の特徴を把握することができる。これにより各学校，教育委員会等における具体的な改善方策等の作成に向けた分析・検証を支援しようとするものであり，

① 全国を基準に用いれば，全国の状況との関係における各学校等の学力・学習状況の位置づけ，

② 都道府県を基準に用いれば，都道府県の状況との関係における各学校等の学力・学習状況の位置づけ，

③ 各市町村等を基準に用いれば，各市町村等の状況との関係における各学校の学力・学習状況の位置づけ

について把握することをねらいとした手法である。このため，各学校，教育委員会等においては，分析・検証しようとする観点に応じて，本手法を活用することが期待される。例えば，各市町村教育委員会において，域内の学校への支援等を検討するにあたり，域内における各学校の学力・学習状況や学力向上への取組状況等を俯瞰的に見る際に，各市町村を基準として，各学校の「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成し，活用することが考えられる。

本手法のメリットとしては，調査結果に基づく学力，学習状況，学校運営等の状況を視覚化することにより，全国学力・学習状況調査の結果を分析・検証する際に，数値データだけを見るよりも，全国，都道府県，市町村等のそれぞれにおける状況との関係において，各学校等の児童生徒の学力・学習状況の特徴が見出しやすくなり，その結果，調査結果を活かした分析・検証と改善の方針を把握し立てやすくなることがあげられる。

（３）「全国学力・学習状況調査結果チャート」の活用の流れ

各学校，教育委員会等が「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法を活用した分析・検証を行い，自らの教育及び教育施策の成果や課題等を把握し，その改善を図るに際して，次のような流れが想定される。

【学校の場合】

① 各学校の調査結果を標準化して「全国学力・学習状況調査結果チャート」に位置づける（分析の視覚化）。

↓

②「全国学力・学習状況調査結果チャート」のパターンから学力，学習状況，学校運営等の成果や課題等を取り出して整理する（分析・検証）。

↓

③自校の課題に対応した学力向上等に向けた改善計画等を作成する（改善計画等の作成や指導計画等への反映）。

↓

④作成した改善計画等に沿って改善の取組を行い，その実施進捗状況を把握して改善に向けた取組の成果等を評価する（実施状況評価）。また，市町村教育委員会等と情報を共有し，必要に応じて，連携して改善の取組を進める。

【教育委員会の場合】

①域内の各学校の調査結果を標準化して「全国学力・学習状況調査結果チャート」に位置づける（分析の視覚化）。

↓

②それぞれの「全国学力・学習状況調査結果チャート」のパターンから学力，学習状況，学校運営等の成果や課題等を取り出して整理するとともに，各学校等の成果や課題等を取り出して整理する（分析・検証）。

↓

③②で分かった課題やその他の分析結果等を参考にして，全体の教育施策や各学校等の実情を踏まえた支援等の改善方策等を検討する（改善方策等の検討や改善計画の作成等）。

↓

④検討した教育施策や支援策等を実施する（改善方策等の実施）。

また，「全国学力・学習状況調査結果チャート」の活用にあたっては，各学校等に固有の諸条件を十分に考慮した上で活用を図り，その学校等における学力向上のための課題を解決するために工夫された改善計画等を作成したり，指導計画等に反映させて実施していくことが最も重要と考えられる。

ただし，本分析・検証手法は，あくまでも各学校等の課題の把握や，教育委員会の教育施策や学校に対する支援策の立案に役立てることが主眼であり，学校間の序列化や過度な競争等が生じないよう十分に配慮を行うよう留意する必要がある。

２．「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法の手順

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法は，まず「全国学力・学習状況調査結果チャート」を以下の１）～３）の流れに沿って作成し，それを基に分析・検証を行うものである。

１）a.分析対象（学校等）
　b.比較基準となる母集団（全国，都道府県，市町村等）
　c.「全国学力・学習状況調査結果チャート」に用いる領域とそれを構成する質問項目の決定

２）１）の基本的事項から各領域のスコアを算出する（詳細は別添参照）。

３）２）で算出した各領域のスコアを用いて，「全国学力・学習状況調査結果チャート」を多角形の図として表現する。

今回は，学力・学習状況に関する分析・検証を行うための「全国学力・学習状況調査結果チャート」の基本的なものとして，

①教科に関する調査および児童生徒質問紙調査の結果から児童生徒の学力と学習状況の関係を 12 の領域のスコアから見る「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」（図1，表１）

②教科に関する調査および学校質問紙調査の結果から児童生徒の学力と学校の指導方法や学

校運営との関係を 12 の領域のスコアから見る「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」（図２，表２）

の 2 つを提案する。これらの「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」と「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」は，教科学力だけでなく，児童生徒質問紙調査に含まれている学習に対する関心・意欲・態度，家庭での生活習慣や学習習慣，豊かな体験，規範意識，自尊感情等や，学校質問紙調査に含まれている教科指導の多様性，教員研修の充実，学校評価，学力向上に向けた取組，地域の人材・施設の活用，児童生徒の状況などについて，俯瞰的に見ることをねらいとしている。

図１「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の例

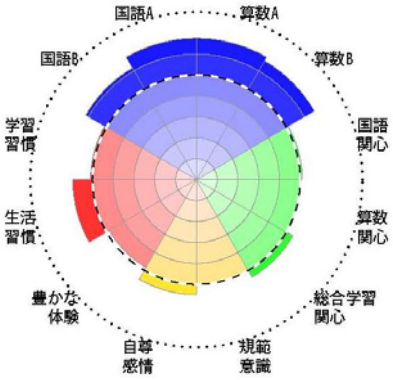


図２「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」の例

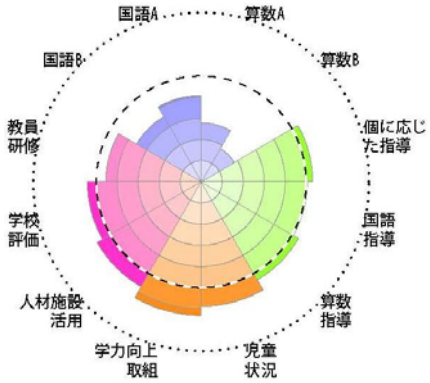


表１　「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校児童質問紙対応領域・項目番号	中学校生徒質問紙対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語 A		
	2		算数／数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数／数学 B		
Ⅱ	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	(68)～(78)	(70)～(78)
	6		算数／数学への関心等	(79)～(86)	(81)～(88)
	7		総合的な学習への関心等	(64)～(67)	(66)～(69)
Ⅲ	8	規範意識・自尊感情	規範意識	(44)～(50)	(46)～(52)
	9		自尊感情	(9)～(12)	(9)～(12)
Ⅳ	１０	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	(51)～(60)	(53)～(62)
	１１		生活習慣	(1)～(8)	(1)～(8)
	１２		学習習慣	(32)～(35)	(34)～(37)

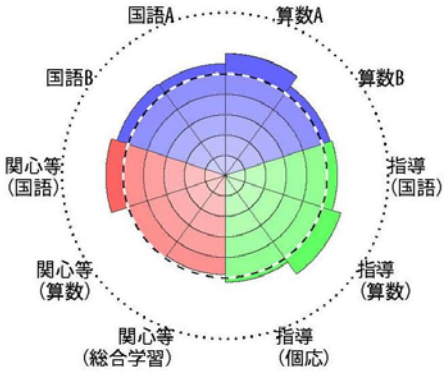
表２　「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校学校質問紙対応領域番号	中学校学校質問紙対応領域番号
Ⅰ	１	教科学力	国語Ａ		
	２		算数／数学Ａ		
	３		国語Ｂ		
	４		算数／数学Ｂ		
Ⅱ	５	教科指導	個に応じた指導	(43)～(48)	(45)～(50)
	６		国語科の指導法	(49)～(55)	(51)～(57)
	７		算数／数学科の指導法	(57)～(61)	(58)～(62)
Ⅲ	８	学力向上	児童生徒の状況	(16)～(17)	(16)～(17)
	９		学力向上に向けた取組	(28)～(35)	(30)～(37)
Ⅳ	１０	学校運営	地域の人材・施設の活用	(65)～(69)	(65)～(69)
	１１		開かれた学校・学校評価	(78)～(87)	(78)～(87)
	１２		教員研修	(88)～(93)	(88)～(93)

「全国学力・学習状況調査結果チャート」は，各領域について算出したスコアの値を中心から放射状にプロットし，そのプロットした点を結んで円内に多角形のグラフを書く形にした（図１，図２）。このグラフは，ある領域内の項目群の状況と領域間の状況を，視覚的に比較しやすくしていることに特徴がある。

また，学力・学習状況に関する分析・検証のために調査結果を視覚化する「全国学力・学習状況調査結果チャート」は，各教育委員会や学校等が何を分析するかという観点に応じて，領域の組み合わせを変えることが可能である。図３に，①教科学力，②学習に対する関心・意欲・態度（児童生徒質問紙調査），③教科指導（学校質問紙調査）を組み合わせた「全国学力・学習状況調査結果チャート」のバリエーション例を示す。

図３　「全国学力・学習状況調査結果チャート」のバリエーション例



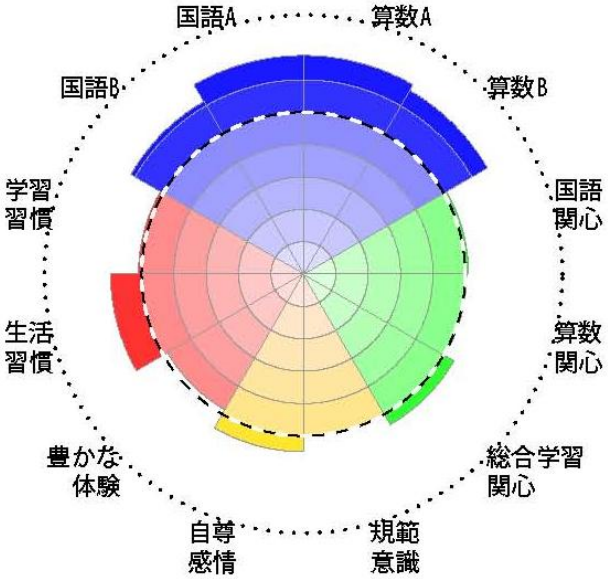
「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた分析・検証を行うにあたっては，各学校等の特性を考慮に入れることで，より詳細な分析・検証が可能となることに留意する必要がある。さらに，「全国学力・学習状況調査結果チャート」を複数の観点で分析・検証した結果を整理し，一覧表にしてわかりやすくまとめるなどの工夫が考えられる。

３．学力・学習状況に関する分析・検証の具体例

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学校の学力・学習状況に関する分析・検証を行う際の参考とするため，今回は，①「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」と，②「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」について，学校を分析対象とした場合の「全国学力・学習状況調査結果チャート」の具体例を示す（資料１～３を参照）。

（資料１）全国学力・学習状況調査結果チャート※[児童生徒]の例

事例１―１



①特徴

教科学力のスコアが，他の質問領域のスコアに比べて高い。

②現状把握

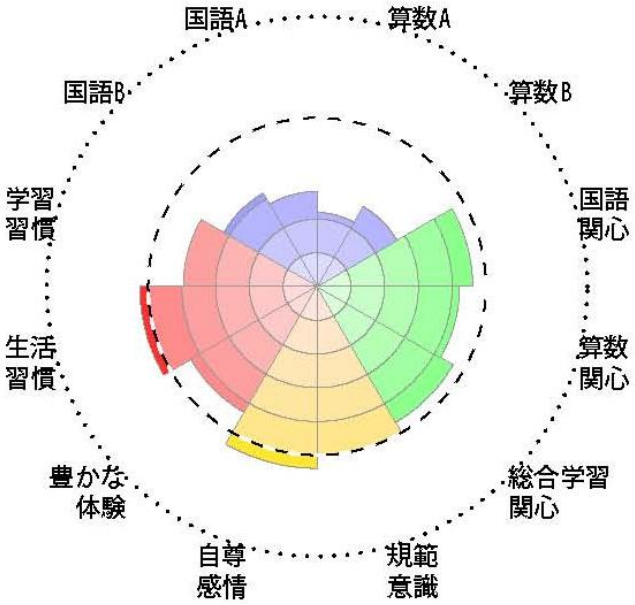
教科学力と比較して，教科への関心等が平均並みに止まっている。

③授業改善のポイント

教科に関する児童生徒の学力を維持しつつ，学習意欲や学習習慣を高める工夫をすることが考えられる。

また，子どもの規範意識等を高めるための教育実践に力を入れることも望まれる。

事例１－２



①特徴

教科学力のスコアが，他の領域に比較して低い。

②現状把握

この事例では，特に教科学力について大きな課題が見られる。

さらに，国語・算数への関心・意欲・態度や学習習慣にもやや課題が見られる。

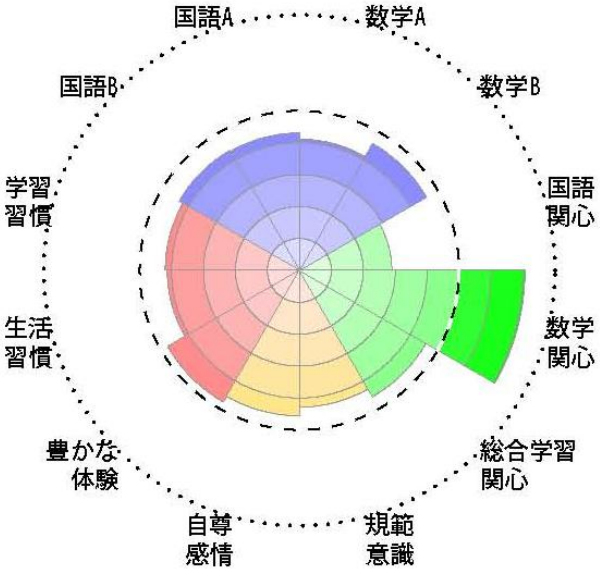
③授業改善のポイント

このような学校では，教科に関する学力の向上を取り組むことが重要と考えられる。

そのためには，基礎的・基本的な知識・技能の定着や，授業での学習意欲を高める指導の工夫や自ら主体的に学ぶ態度の育成などの学力向上に向けた方策を計画し，実践していくとともに，家庭学習の充実を図ることが有効な取組と考えられる。

※以下，文中では「結果チャート」という。

事例１－３



①特徴

数学の関心・意欲・態度のスコアが突出して高い。

②現状把握

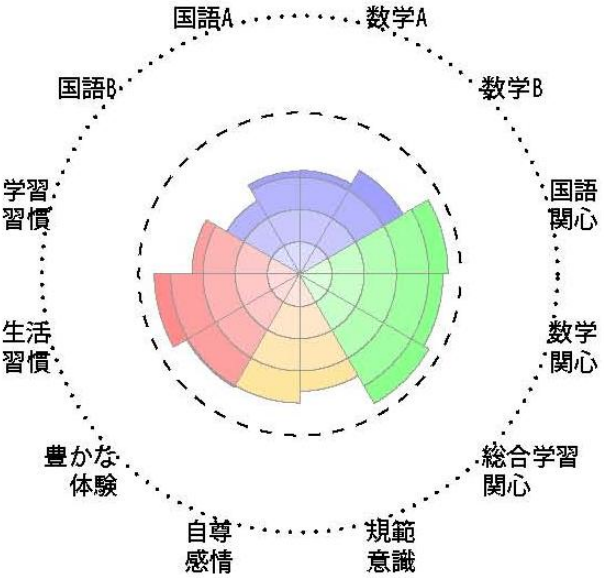
数学の関心・意欲・態度のスコアは高いが，教科学力のスコアやその他の領域のスコアが低くなっている。

③授業改善のポイント

この事例は，授業改善に努力している教科における学習の成果が突出して現われており，教科担任制である中学校などでよく見られる。

このような場合，一教科だけで授業改善を行うのではなく，多くの教科で子どもの学力向上を図ることが方策として考えられる。また，その基盤となる生活・学習習慣の改善や規範意識・自尊感情を高める教育実践にもバランスよく取組むことも大切である。

事例１－４



①特徴

教科学力，学習に対する関心・意欲・態度，体験・習慣，規範意識・自尊感情のすべての領域においてスコアが低い。

②現状把握

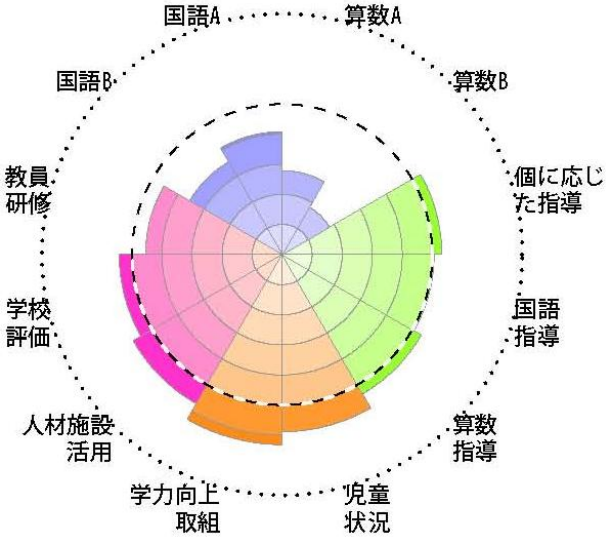
この事例では，すべての領域における学力・学習状況に課題がみられる。

③授業改善のポイント

このような事例では，学校の教育に原因があるのか，それ以外の課題によるものなのかを明らかにして授業改善に活かす必要がある。このような課題が大きい学校では，まず生活・学習習慣の根本的な見直しを図ることが有効な場合が多いと考えられる。その際には，全教職員により一貫した取組を進めることが必要である。また，併せて体験活動を行うなど，スコアの低い規範意識・自尊感情を高める活動も重要と考えられる。

（資料２）全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]の例

事例２－１



①特徴

学校運営のスコアが比較的高い一方で，児童の教科学力のスコアが低い。

②現状把握

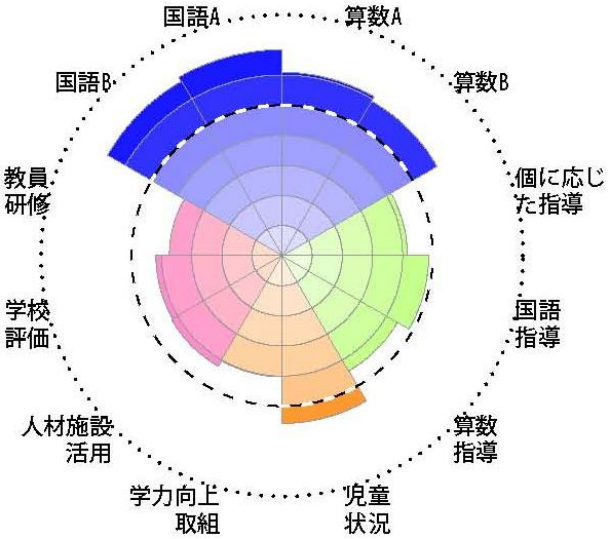
この事例では，学校運営については多くの領域でスコアが高くなっているが，教員研修のスコアは比較的低い。

③授業改善のポイント

このような事例では，学校の授業や学校運営の改善の取組は進んでいるが，児童の学力向上に結びついていないケースが考えられる。

現在行っている取組について，地域や家庭などの特性も考慮しながら取組内容を点検し，計画的な教員研修なども行いながら，より効果的なものに改善していくことが考えられる。

事例２－２



①特徴

児童の教科学力のスコアが比較的高いが，学校運営のスコアは比較的低くなっている。

②現状把握

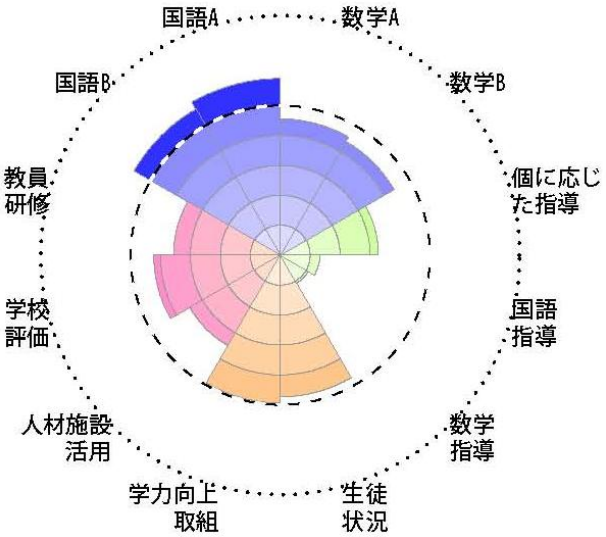
教科学力のスコアは高く，また児童の状況のスコアもやや高いが，教員研修などの学校運営のスコアや学力向上に向けた取組のスコアが低くなっている。

③授業改善のポイント

この結果チャート[学校運営]を見ると，教科指導の取組や，組織的な教員研修等が十分に行われていないことが考えられる。

教科学力のスコアは高く成果が上がっているため，児童の豊かな体験，生活・学習習慣，自尊感情・規範意識などを伸ばすことを目標として，学校運営や学習指導などを見直すことなどにより，さらなる改善が期待できると考えられる。

事例２－３



①特徴

生徒の教科学力のスコアが平均値に近い一方で，教科指導と学校運営のスコアに課題が見られる。

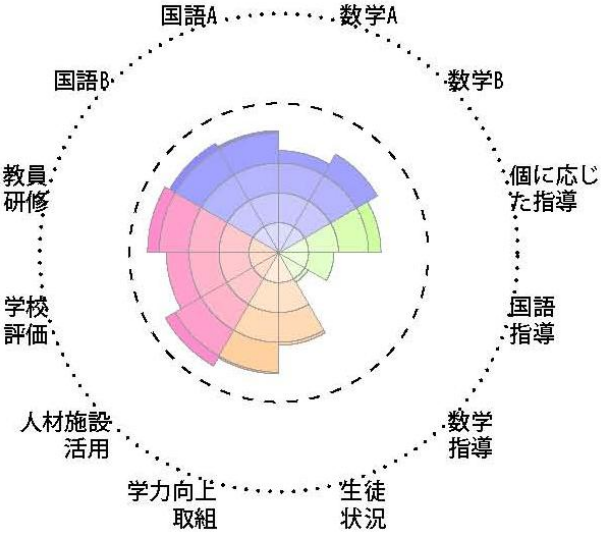
②現状把握

数学のスコアは若干平均を下回るが国語のスコアは比較的高く，生徒の教科学力のスコアには大きな課題が見られない。しかし，教科指導や学校運営のスコアが低く，改善に向けた取組を更に進める余地のある状況が見られる。

③授業改善のポイント

学校の教科指導や学校運営の取組について改善を図ることにより，生徒の教科学力がさらに高まる可能性がある。教科指導の改善のための校内研修を行うことなどにより，授業における指導方法を工夫するなどの改善に積極的に取組むことが有効であると考えられる。

事例２－４



①特徴

生徒の教科学力，学校運営のスコアについて全体的に大きな課題が見られる。

②現状把握

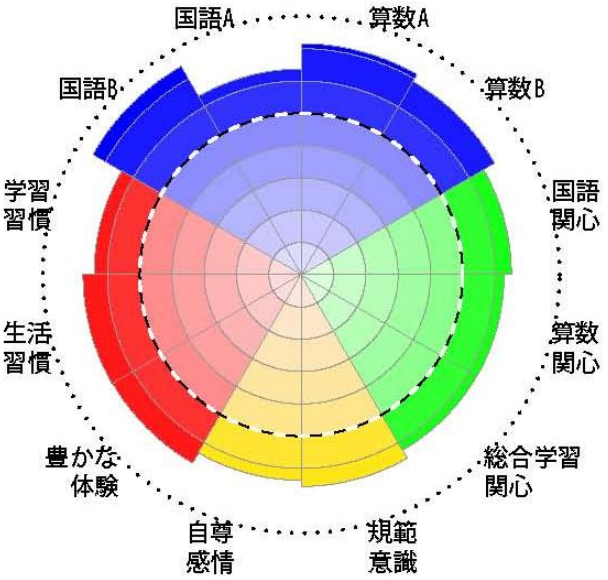
教科学力のスコアすべてに課題が見られる。また，学校運営のスコアについて全般的に課題が見られ，特に教科に関する指導に関するスコアについて低くなっている。学校が教科指導の改善や学校運営の改善に十分に取り組んでいない状況が見られる。生徒の状況のスコアも比較的低い状況が見られる。

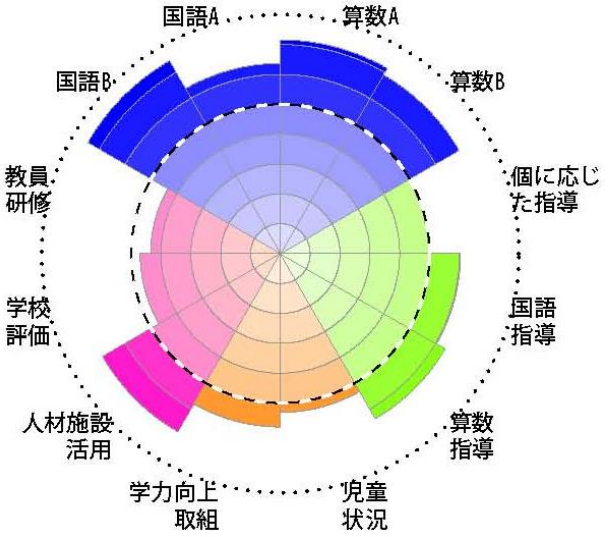
③授業改善のポイント

このような学校では，すべての項目の改善を一度に図るのでなく，まず，全教職員が協力して，授業規律を徹底し，生徒の授業への意欲や集中力を高める工夫を行うことが必要と考えられる。また，この取組は，国語と数学だけでなく，全ての教科で行うことが重要である。

（資料３）全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]（上段）と全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]（下段）を併せて見た例

事例３－１





①特徴

教科学力及び児童生徒の学習状況に関し，すべての質問領域のスコアが平均を上回っている。一方で，学校運営に関する質問領域では，教科に関する指導や地域の人材・施設の活用のスコアは高いが，教員研修や学校評価，個に応じた指導に関するスコアは平均並かやや低くなっている。

②現状把握

結果チャート[児童]は全体的に高いレベルでバランスがとれている学校である。

結果チャート[学校運営]を重ね合わせて見てみると,「学力向上に向けた取組」と「個に応じた指導」が平均程度,「学校評価」と「教員研修」に関わる取組が平均未満となっている。

③授業・学校運営改善のポイント

結果チャート[児童]から見る限りにおいては,大きな課題は見られないが,家庭での学習習慣のスコアから他の領域に比べてさらに取組を進める余地が見られる。

一層の学力向上を図るためには，宿題や予習・復習の習慣をより多くの児童に身につけさせるための取組を進めることが考えられる。

また，この学校の結果チャート[学校運営]ではスコアが低い項目があることから，学校の取組だけでなく地域や家庭における教育が児童の学力・学習状況の高さにつながっていることが考えられる。「教員研修」に更に取り組む余地が見られるので，新しい教育課題をとらえるために教職員を外部研修に出す機会を与えるなど，教員研修を充実させることにより，教育内容の一層の充実を図ることも大切であると考えられる。

事例３－２

①特徴

国語Ａ，算数Ｂと総合的な学習の時間の関心等と自尊感情，豊かな体験においてスコアが高くなっている。

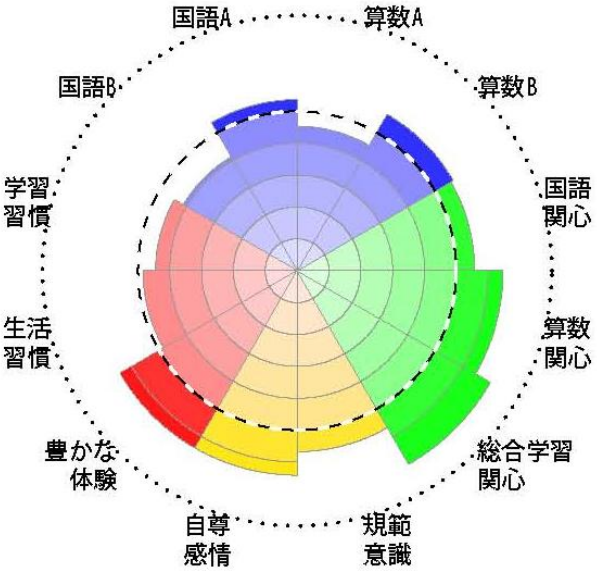
また，学校運営では，学校評価や地域の人材・施設の活用，児童の状況のスコアが比較的高くなっている。

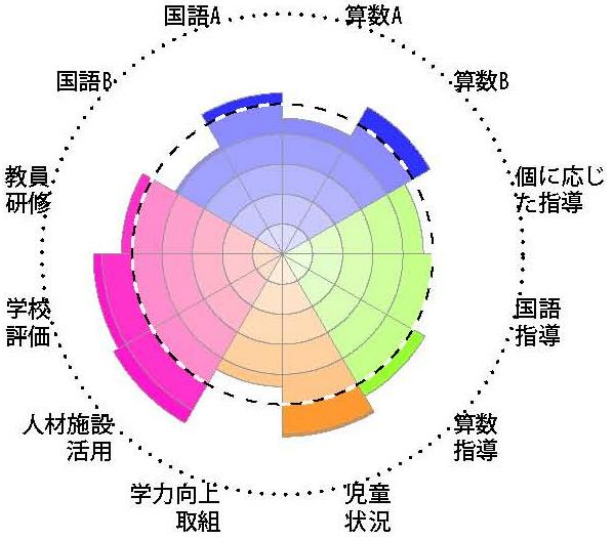
②状況把握

この学校では，総合的な学習の時間の成果が突出して高く，児童の自尊感情も高くなっている。

それ以外にも，算数の関心が高いことは学校運営において算数の指導の取組のスコアが比較的高いこと，豊かな体験のスコアが高いことは学校運営において地域の人材活用がなされていることと関係があることが考えられる。

しかし，児童の生活・学習習慣については，スコアが平均より低く課題が見られる。





③授業・学校運営改善のポイント

児童の学習への関心は高いので，その長所や自尊感情の高さを失うことなく，生活・学習習慣を定着させることにより，更なる教科学力の向上を目指すことが大切である。

この学校では，国語・算数においてＡ問題とＢ問題の得点に差が見られる。

例えば，国語Ｂで出題されている言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用する力を伸ばすため，算数の指導で活用の力を伸ばした経験やノウハウも参考にしつつ，国語の指導において一層の指導の工夫を図ることが考えられる。

また，算数においては，算数Ａのスコアが低いことから，スコアが低い学力向上の取組や学習習慣の定着を図っていく中で，基礎・基本となる知識・技能を身につけさせることが重要と考えられる。

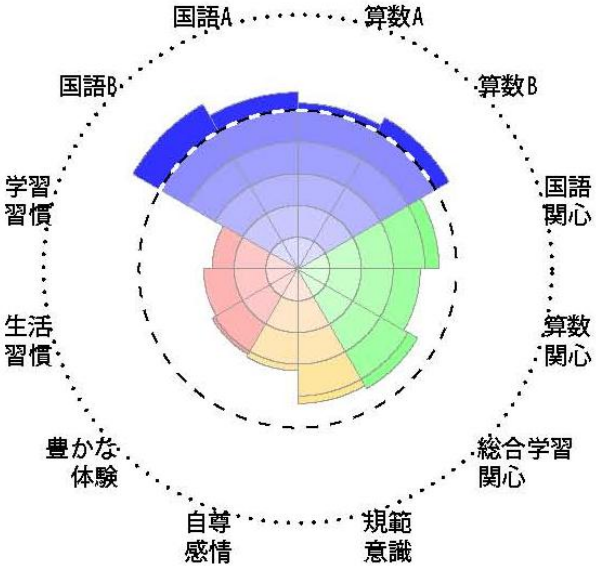
これらの取組を進めるにあたっては，基礎・基本となる知識・技能の定着と活用の力をバランス良く育成することが，児童の学力を一層向上させる上で大切であると考えられる。

事例３－３

①特徴

教科学力で成果をあげているのに比較して，児童の学習状況に関する質問領域には課題が見られる。

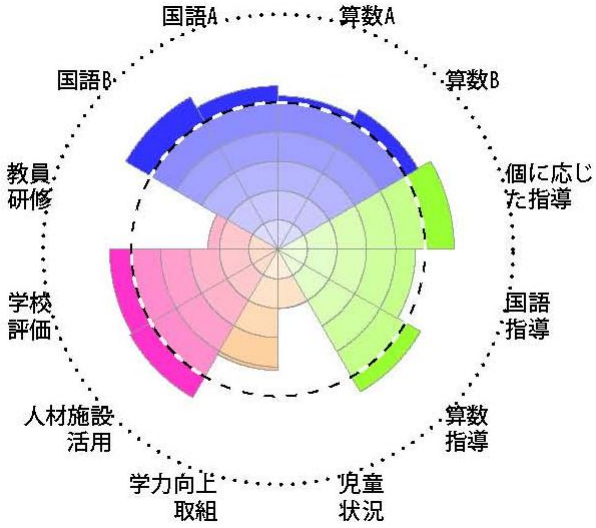
学校運営に関する質問領域では，算数の指導に対する取組や学校評価，地域の人材・施設の活用に関するスコアが高くなっているが，教員研修や学力向上の取組，児童の状況に関するスコアが低く，課題が見られる。



②現状把握

教科学力のスコアにおいては，国語と算数の両教科について，A 問題でも B 問題でも，バランスよく高い水準にあることから，基礎的な知識・技能の学びと活用に関する学びのバランスがとれているといえる。

また，高いスコアを示している教科指導に関する学校の取組だけでなく，学校評価と地域の人材・施設の活用のスコアも高いことから，地域や家庭の協力もあり，児童の教科学力が高まっていることが考えられる。



③授業・学校運営改善のポイント

課題が見られた児童の関心や自尊感情・規範意識，学習習慣・生活習慣等の改善に取り組むことが必要であると考えられる。

特に児童の学習習慣と生活習慣のスコアが低いため，まずこの改善に取組むことが大切である。その上で，学習意欲を喚起するため，授業における教材や活動を工夫することなどが有効な手段として考えられる。

また，スコアの低い教員研修について，校内外の研修などの取組を一層充実することにより，教員の教科指導や生活指導などの力を伸ばし，児童の学力や学習意欲の一層の向上や学習習慣の確立につながることが期待される。

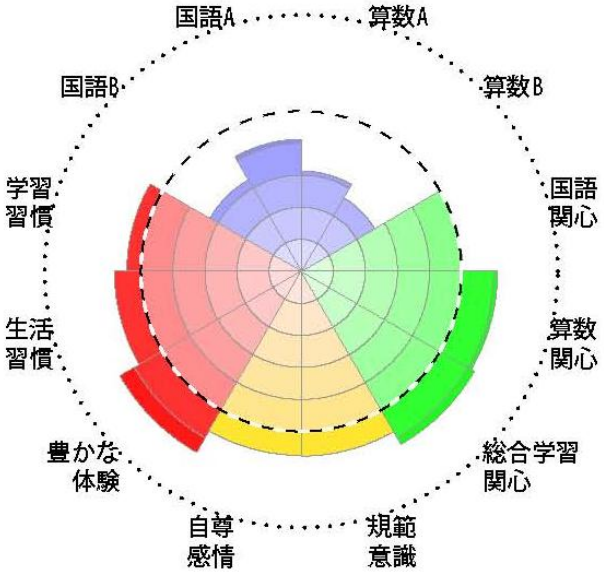
事例３－４

①特徴

教科学力のスコアが低いのに対して，豊かな体験，学習習慣，生活習慣，規範意識，自尊感情，教員研修などにおいてはスコアが高くなっている。

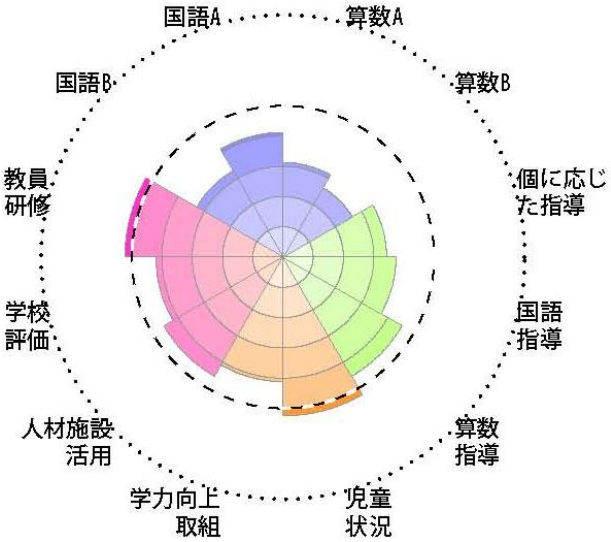
②現状把握

この結果チャート[児童生徒]からは，教科学力とそれ以外の質問領域のスコアの間に，大きな乖離がみられる。また，結果チャート[学校運営]では，教員研修と児童の状況のスコアは比較的高いが，それ以外の質問領域のスコアが低く，課題が見られる。ただし，学習習慣や生活習慣には成果も見られるので，学校運営の状況が改善していけば,学力が向上することが考えられる。



③授業・学校運営改善のポイント

結果チャート[児童]を見ると，すでに児童の豊かな体験，学習習慣，生活習慣，規範意識・自尊感情が形成されているので，児童の学力向上に向けた授業改善などの取組により，児童の学力向上が実現しやすい状況にあると考えられる。



このような学校では，まず，低いスコアとなっている児童の教科学力を向上させるための授業改善に取り組むことが大切である。

そのため，スコアの低い教科指導における工夫を図ったり，学力向上に向けた取組を進めたりすることが重要である。

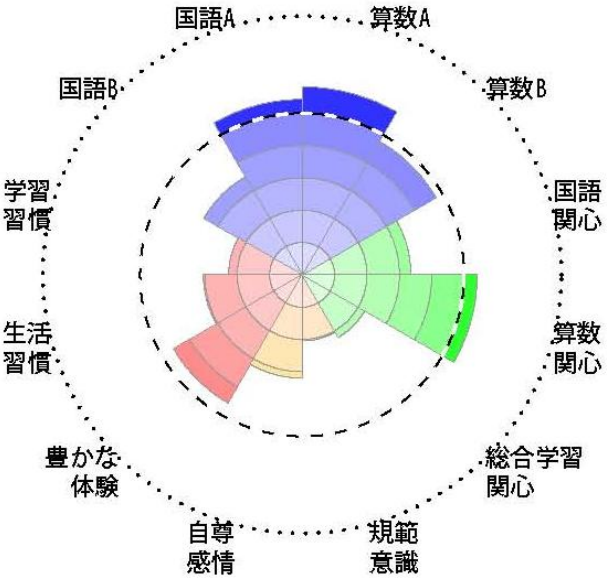
また，この学校では，教員研修は充実している傾向が見られるため，今後，校外の研修を活用して最新の知見を取り込むとともに，校内研修において，その研究テーマを明確にし，内容を工夫することで，教員の授業を行う技能を向上することが，授業改善を図る上で有効な手段と考えられる。

事例３－５

①特徴

国語と算数のＡ問題において一定の成果が見られるが，児童の学習状況についてのスコアは低く，課題のある質問領域が多く見られる。

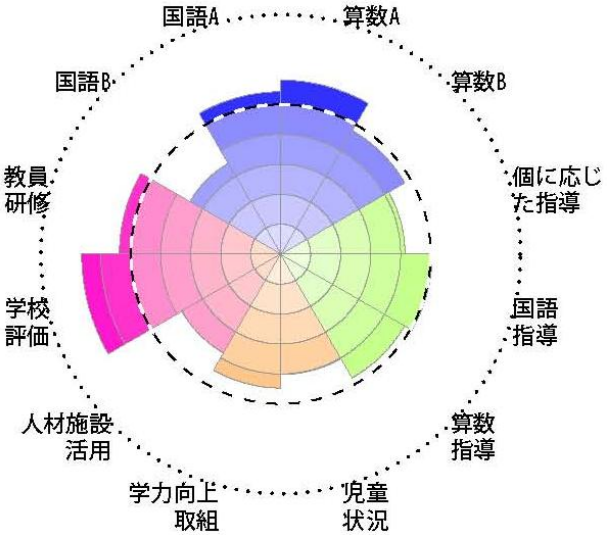
学校運営では，教科指導に関する質問領域や地域の人材・施設の活用のスコアが平均を下回っている。



②現状把握

基礎的な学力と算数における関心等については一定の成果をあげているが，特に児童の状況に課題が多いと考えられる。また，教科学力についてはこれまでの学校の取組により，基礎・基本となる知識・技能は定着しているが，活用に関する力には課題が見られる。

また，学校評価のスコアは高く取組が進んでいると考えられるが，個に応じた指導や地域の人材・施設の活用，学力向上の取組のスコアが低く，課題が見られる。



③授業・学校運営改善のポイント

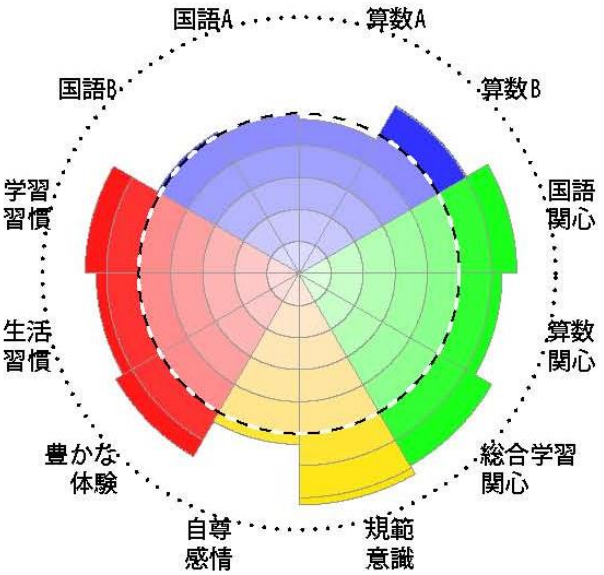
この学校は，教科の基礎的な学力において一定の成果を上げているが，児童の知識・技能を活用する力を伸ばす必要がある。また，教師の取組としては，教科指導に関する領域は平均程度であるが，個に応じた指導については低くなっている。このため，活用する力を伸ばすための指導方法を工夫して授業に取り入れるなどの授業改善を行うことや，地域の人材・施設を活用した取組を充実させることが考えられる。その際には，児童の基本的な知識・技能を定着させるための取組と活用する力を伸ばすための取組にバランス良く取り組むことが，児童の学力向上を図る上で大切であると考えられる。

さらに，児童の生活・学習習慣や，規範意識，自尊感情に大きな課題が見られることから，生活・学習習慣の改善や児童の状況の改善を図ることが重要であり，そのために，家庭との連携のもと，学校全体として改善に向けて取り組むことが必要であると考えられる。

事例３－６

①特徴

教科学力は概ね平均的な状況であるが，算数Ｂのスコアは高くなっている。また，児童の学習に対する関心・意欲・態度や自尊意識，生活習慣などのスコアは非常に高くなっている。学校運営では，算数の指導のスコアが高くなっており，その他の質問領域のスコアは概ね平均的である。

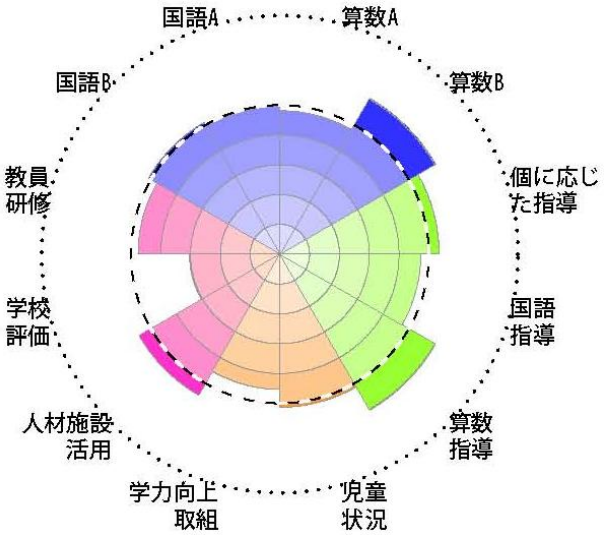


②現状把握

教科学力が平均的にバランスがとれている状況の中で，児童の学習状況にも良好な傾向が見られる。一方で，学校運営は概ね平均的な状況にあることがうかがえ，学校の取組の改善により，学力向上につながる可能性があると考えられる。

③授業・学校運営改善のポイント

この学校の結果チャート[学校運営]を重ね合わせて見ると，算数の指導においては指導方法を工夫している状況が見られ，算数Ｂのスコアが高いという成果につながっていると見られる。しかし，その他の学校運営にかかる質問領域のスコアは，全体的に平均的な状況にあり，教員研修や学校評価については十分な取組が行われていないと考えられるので，今後，学校運営の取組について一層の改善を図ることにより，児童の学力の更なる向上が期待される。



また，このような学校は，結果チャート[児童]から見ると，児童の関心・意欲・態度，規範意識，生活・学習習慣などは充実しているため，学校の取組の成果が出やすいことが考えられる。

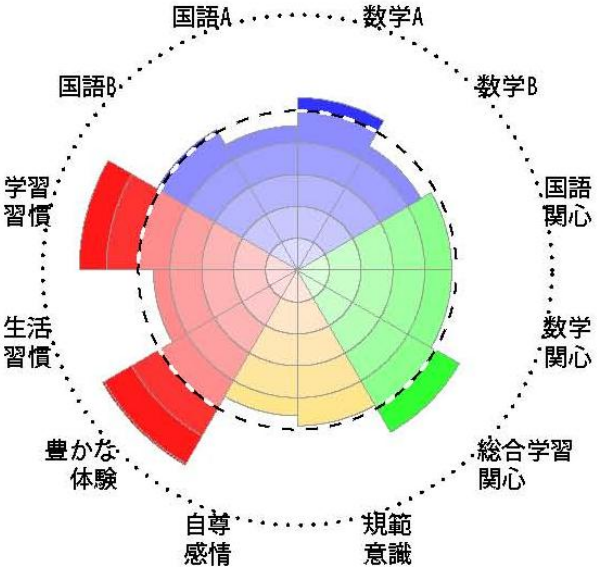
そのため，全教職員が学力向上という共通の目標を持ち，成果が見られた算数の指導における経験・ノウハウを校内研修で共有することなどにより，授業改善に取り組むことが有効な手段として考えられる。

事例３－７

①特徴

生徒の学習状況と教科学力は全体として平均的な傾向にあるが，学習習慣と豊かな体験のスコアは高くなっている。

また，学校運営に関する質問領域のスコアについては，全体的に高い傾向が見られる。

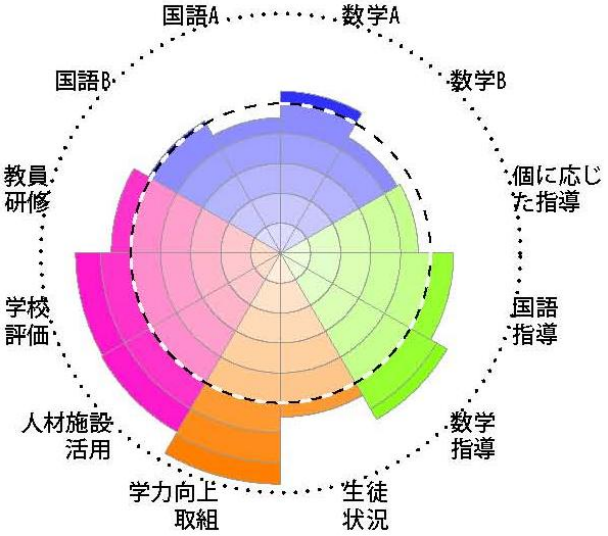


②現状把握

教科学力は，国語・数学ともに平均的なスコアを示しており，学習習慣も身についているが，生活習慣などに課題が見られる。

③授業・学校運営改善のポイント

学校運営については，比較的充実している質問領域が見られ，特に学力向上の取組に力を入れている。その取組が学習習慣や豊かな体験のスコアの高さにつながっているものと考えられる。他に比べて低いスコアとなっている生活習慣の改善にしっかりと取り組むことによって，学力の向上につながる可能性があると考えられる。



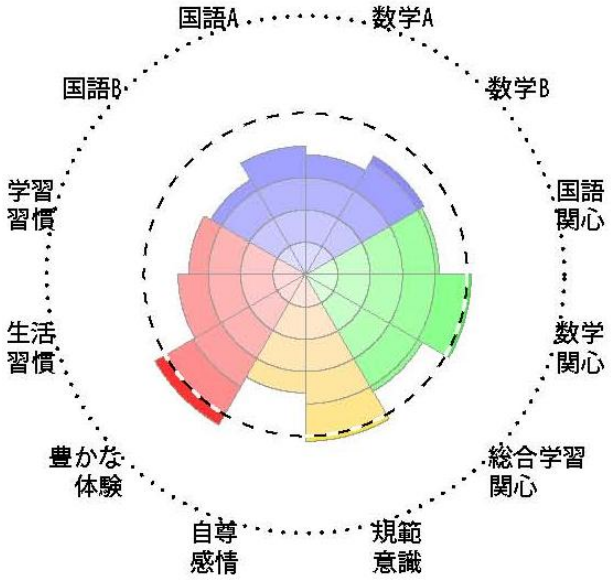
一般的に，中学生になると生活習慣を改善することが難しくなる傾向があるため，学校において，家庭や地域とも連携しつつ，生徒の生活習慣の改善に取り組むことが重要である。

また，学校の取組についても，その内容を見直すことにより，生徒の学力向上につながる可能性がある。そのため，各教科の一層の授業改善によって学習意欲の向上を図ることや，指導にあたって多様な学び方を習得させるよう努めることなどが有効な手段として考えられる。また，数学においては，問題Ａは比較的高いスコアとなっているが，問題Ｂのスコアが低いことから，活用する力を伸ばすための指導の工夫を行うことが重要であると考えられる。

事例３－８

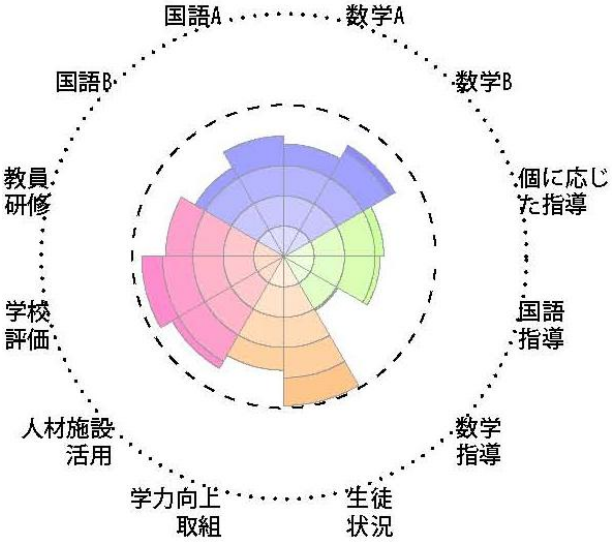
①特徴

数学への関心等，規範意識，豊かな体験のスコアについて平均的な状況にあるが，全体としてスコアの低い質問領域が多い。学校運営についても，生徒の状況のスコアは平均的だが，その他の質問領域のスコアは比較的低い傾向にある



②現状把握

全体として，スコアの低い質問領域が多く，学校の運営と生徒の学力・学習状況の両方に課題が見られる一方で，規範意識，生徒の状況などの質問領域については，平均的なスコアであり，生徒の規範意識等の高さを維持・向上しつつ，比較的低い学習習慣と生活習慣の確立や自尊意識の向上を図ることが必要と考えられる。



③授業・学校運営改善のポイント

学習習慣と生活習慣の確立が，学力向上において大変重要であり，まず，保護者や地域との連携の下，全教職員で生徒の学習習慣と生活習慣の改善に取り組むことが重要と考えられる。

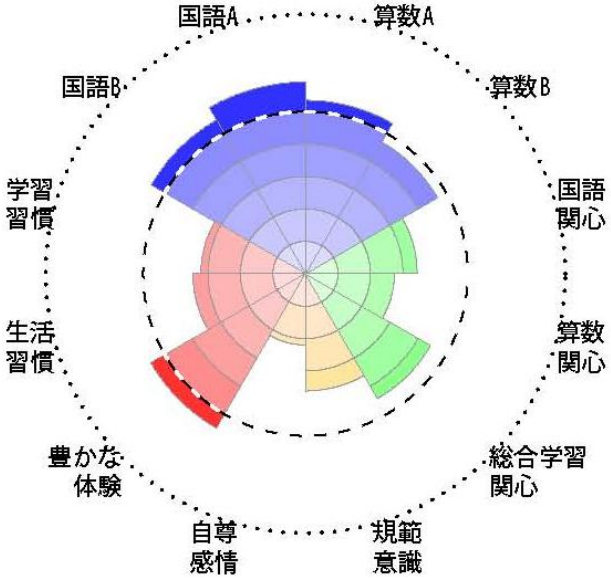
その際には，教科担当のみならず学級担任を含むすべての教職員が，現状の認識を共有し，協力して改善に向けた方策を考え，実行していくことが重要であると考えられる。

その上で，スコアの低い教員研修などを充実するとともに，指導方法の工夫・改善に取り組むことなどにより，学校全体として教科の指導の改善に取り組んでいくことが，学力や学習意欲を向上させるために有効な手段と考えられる。

事例３－９

① 特徴

国語Ａ・Ｂ，算数Ａの教科学力のスコアと国語の指導，学力向上の取組や学校評価のスコアが比較的高いが，児童の学習に対する関心等や学習習慣・生活習慣，児童の状況や算数の指導等のスコアが比較的低くなっている。

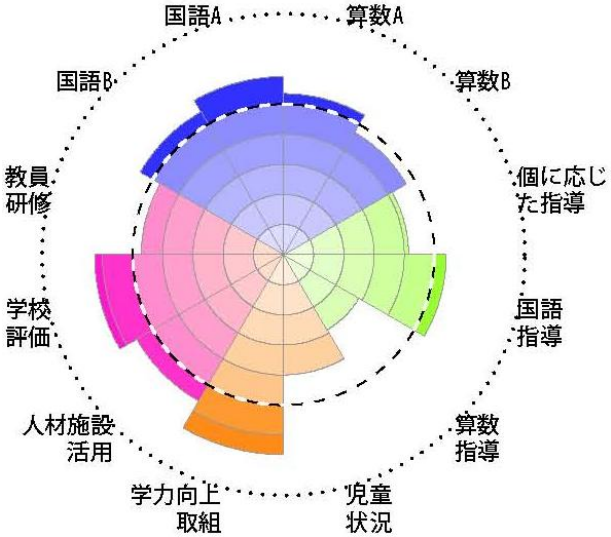


②現状把握

国語については，教科指導の取組が進んでおり，教科学力のスコアについても高い傾向が見られる。

一方で，算数については指導の取組状況のスコアが低く，また，算数Ｂのスコアも低くなっており，児童の学力と学校の教科指導の取組とも教科の偏りが見られる。

また，児童の教科に関する関心，生活・学習習慣，自尊感情・規範意識や児童の状況に課題が見られる。



③授業・学校運営改善のポイント

国語のＢ問題においても，かなりの成果をあげていることから，この学校では必ずしも基礎学力に限定した授業を行っているわけではないことが分かる。したがって，算数の授業においても，基礎学力の定着を図るとともに，知識・技能を活用する力を育てる工夫を取り入れることによって，学力がバランスよく高まる可能性がある。

また，教科指導だけでなく，総合的な学習の時間の充実や，地域や家庭と協力した生活・学習習慣の見直し，さらには，規範意識や自尊感情の育成などに取り組むことが重要と考えられる。

教員相互の協力が少ない場合などに，今回の結果チャートに見られるように，学級担任の得意な分野や一定の教科の指導に重点が偏ることが考えられる。教員研修の取組に改善の余地があると考えられることからも，今後，国語の指導における経験・ノウハウも生かしつつ，校内研究授業などを通して学校内の様々な教員と広く意見交換できる校内教員研修の場づくりや校外研修を活用するなど，教員研修の充実を図ることが有効と考えられる。

事例３－１０

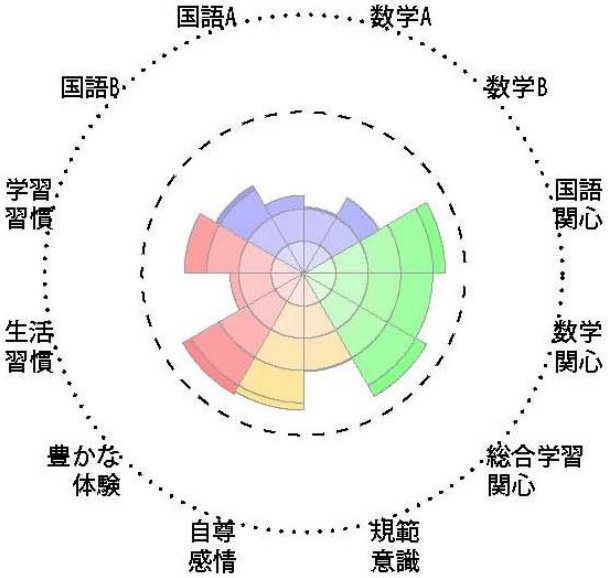
①特徴

生徒の学力・学習状況のスコアは低いが，個に応じた指導や教員研修，学校評価，人材・施設活用のスコアが高くなっている。

②現状把握

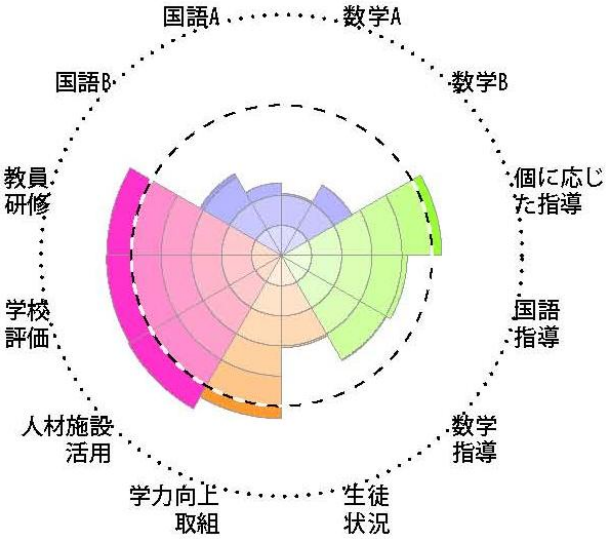
２つの結果チャートから，学校として学力向上のために様々な取組を進めているが，教科学力のスコアは比較的低い状況が見られる。

また，生徒の学習状況，特に生徒の規範意識や生活習慣に課題がある。さらに，教科指導のスコアは低く，教科指導の工夫は進んでいない状況が見られる。



③授業・学校運営改善のポイント

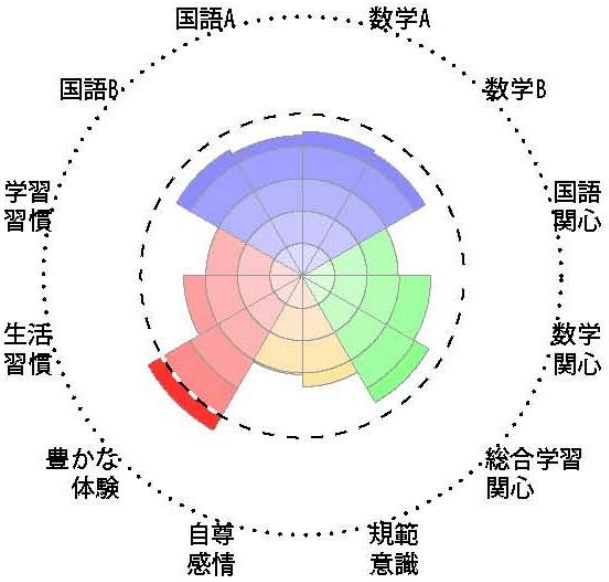
結果チャート[学校運営]における生徒の状況と，結果チャート[生徒]の規範意識，生活習慣のスコアが特に低いことから，まず，授業中の生徒の落ち着きや集中力を回復させるために，指導方法を工夫して授業改善を行うとともに，生徒の生活・学習習慣の見直しを図ることが重要と考えられる。私語が少ないなど，生徒が学びに集中できるようになり，生活習慣・学習習慣の改善が進んだところで，生徒の学習意欲を高める教材や活動の工夫をするなど教科の授業改善に取組むことが有効と考えられる。



事例３－１１

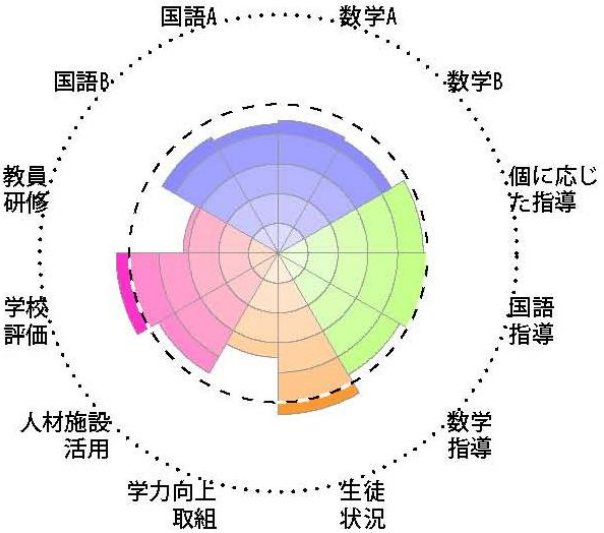
①特徴

豊かな体験のスコアは比較的高くなっているが，教科学力やその他の生徒の学習状況のスコアは低い傾向が見られ，特に自尊感情や規範意識，学習習慣のスコアが低くなっている。また，学校運営については，生徒の状況と学校評価のスコアは比較的高くなっているが，教員研修と学力向上の取組のスコアが低くなっている。



②現状把握

この結果チャート［生徒］からは，生徒の学力・学習状況の改善，特に学習習慣・生活習慣，自尊感情や規範意識において課題が見られる。結果チャート［学校運営］からは，教科指導に関するスコアが平均的だが，教員研修や学力向上の取組のスコアが低いことから，教科指導の工夫は一定程度進んでいるが，教員研修は進んでいない状況がうかがえる。また，学校における生徒の状況のスコアが比較的高く，授業での生徒の状況についての課題は少ない状況もうかがえる。なお，学校評価のスコアについては高くなっている。



③授業・学校運営改善のポイント

この学校では，学校評価は進んでいるが，教員研修や学力向上の取組など教職員による組織的な取組に課題が見られる。まず，校内での教員研修の機会を増やすなどして，学級と教科の担任だけでなく，すべての教員が目標を共有し，共通の認識の下，生徒の学力・学習状況を改善するための方策を検討・実施する体制を作ることが有効であると考えられる。併せて，特に課題が見られる生徒の生活・学習習慣の見直しや，自尊感情・規範意識の改善に取り組むことが重要と考えられる。その上で，教員研修を通じてノウハウや経験を共有化し，教科の授業について一層の工夫・改善を図ることにより，教科への関心等を高めつつ，学力の一層の向上に取り組むことが重要と考えられる。

（別添）　「全国学力・学習状況調査結果チャート」の作成方法

「全国学力・学習状況調査結果チャート」の作成の流れは，以下のとおりである。

１　表１及び表２に例示したように，教科学力の領域には，学力調査の各教科スコアを位置づけ，その他の領域は，児童生徒質問紙調査（又は学校質問紙調査）の中から該当する質問項目を選択し，設定する。

２　これにより選出した質問紙調査の領域毎の対応項目の平均値を「全国学力・学習状況調査結果チャート」の各領域のスコアとして算出する。

３　全国，都道府県，市町村等を母集団として標準化する。

４　算出した領域ごとのスコアから，域内の学校の「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する。

これを踏まえ，1～３における計算手順について以下に述べることとする。

なお，以下，用語の定義について示す
〇基礎値：個別の質問項目又は教科の結果から算出される値。「全国学力・学習状況調査結果チャート」作成の基礎となる数値
〇複合パラメータ：複数の質問項目の基礎値を平均したもの
〇スコア：「全国学力・学習状況調査結果チャート」における分析対象の各領域における値（基礎値や複合パラメータなどから算出）

１）分析対象と比較基準の決定

まず，「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する単位である「分析対象」と，チャートにおいて「比較基準となる母集団」を決める。これに基づいて，「全国学力・学習状況調査結果チャート」の各領域のスコア（数値）を算出することとなる。
分析対象と比較基準となる母集団の組み合わせとしては，学校を分析対象とした場合，
・　全国を比較基準とする場合
・　各都道府県を比較基準とする場合
・　各市町村を比較基準とする場合
が考えられる。

２）分析対象の各領域のスコアの数と，それぞれの領域を構成する質問項目の決定

分析に用いる各領域のスコアの数と，個々の領域を構成する質問項目や教科学力のスコアを決定する。例えば，教科に関する調査の結果に関する各領域のスコアであれば，国語Ａ及びＢ，算数／数学Ａ及びＢごとの平均正答率や，教科区分ごとの記述式問題の平均正答率などが考えられる。
また，質問紙調査の結果に関する結果であれば，例えば，児童生徒質問紙における「国語

が好き」や「国語が大切と思う」などの質問項目で構成することが考えられる。
本書では，表１，表２に示す 12 の領域のスコアで「全国学力・学習状況調査結果チャート」の具体例を作成し掲載している。

３）質問項目に関する各領域のスコアの算出手順

手順１　各分析対象における基礎値の算出方法

（１－１）　個別の質問項目ごとの値を算出する。

①　教科に関する調査の結果を用いた基礎値の特定

教科区分別（国語 A，国語 B，算数／数学 A，算数／数学 B）の結果については，個別の分析対象ごとの平均正答率が基礎値となる。また，記述式問題や学習指導要領の領域ごとなど範囲を限定した調査問題の正答率を領域のスコアとする場合は，個別の分析対象ごとの記述式問題等の平均正答率が，当該領域における基礎値となる。

②　児童生徒質問紙の質問項目に係る基礎値の算出

$$X_i \fallingdotseq 4 \times A_1 + 3 \times A_2 + 2 \times A_3 + 1 \times A_4$$

$A_i =$　当該主体の質問紙調査の回答結果（割合（%））

（A_1 及び A_2 が肯定的な回答，A_3 及び A_4 が否定的な回答）

基礎値を，分析対象の質問紙調査の結果の割合(A_1，A_2，A_3，A_4)から近似的に計算する。
例えば，児童生徒質問紙調査の「国語の勉強はよく分かりますか」という質問で，学校の調査結果が，「当てはまる」27.0%，「どちらかといえば当てはまる」35.0%，「どちらかといえば当てはまらない」30.0%，「当てはまらない」8.0%の場合，その学校の当該質問項目の基礎値は，

$4\times0.27+3\times0.35+2\times0.3+1\times0.08=2.81$

となる。

③　学校質問紙の質問項目に係る基礎値の算出

学校質問紙調査の質問項目においては，選択肢が 4 択のものと 2 択のものがあるため，すべて 2 択に置き直して，基礎値を算出する。

a)学校質問紙の質問項目に係る基礎値

・2 択の質問項目の場合

$X_i = 2$　（肯定的な回答（はい）の場合）

$X_i = 1$　（否定的な回答（いいえ）の場合）

学校質問紙調査の質問項目が 2 択で肯定的な回答をしている場合は基礎値が「2」，否定的な回答をした場合は基礎値が「1」になる。

例えば，「学校の教育活動の情報について，ホームページを開設して情報提供を行っていますか」という質問で「はい」と答えている学校の当該質問項目の基礎値は「2」となる。

・4 択の質問項目の場合

$X_i = 2$ （肯定的な回答のいずれかの場合）

$X_i = 1$ （否定的な回答のいずれかの場合）

学校質問紙調査の質問項目が 4 択で肯定的な回答のいずれか選択している場合は基礎値が「2」，否定的な回答のいずれかを選択した場合は基礎値が「1」になる。

例えば，「第 6 学年の児童に対する国語の指導として，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」という質問で「よく行った」又は「どちらかといえば行った」と答えている学校の当該質問項目の基礎値は「2」となる。一方で，「あまり行っていない」又は「全く行っていない」と回答している学校の当該質問項目の基礎値は「1」となる。

b)教育委員会等における質問項目に係る基礎値

・2 択の質問項目の場合

$$X_i \fallingdotseq 2 \times A_1 + 1 \times A_2$$

$A_i =$ 当該主体の質問紙調査の回答結果（割合（%））

（A_1 が肯定的な回答，A_2 が否定的な回答）

基礎値を，分析対象の質問紙調査の結果の割合（A_1，A_2）から近似的に計算する。

例えば，学校質問紙調査の「学校の教育活動の情報について，ホームページを開設して情報提供を行っていますか」という質問で，ある市において「はい」と答えている学校の割合が 70.0%，「いいえ」と答えている学校の割合が 30.0%の場合，その市の当該質問項目の基礎値は，

2×0.70+1×0.30=1.7

となる。

・4 択の質問項目の場合

$$X_i \fallingdotseq 2 \times (A_1 + A_2) + 1 \times (A_3 + A_4)$$

$A_i =$ 当該主体の質問紙調査の回答結果（割合（%））

（A_1 及び A_2 が肯定的な回答，A_3 及び A_4 が否定的な回答）

基礎値を，分析対象の質問紙調査の結果の割合(A_1，A_2，A_3，A_4)から近似的に計算する。

例えば，「第 6 学年の児童に対する国語の指導として，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」という質問で，ある市における学校の回答結果が，「よく行った」27.0%，「どちらかといえば行った」35.0%，「あまり行っていない」30.0%，「全く行っていない」8.0%となっている場合，その市の当該質問項目の基礎値は，

$2\times(0.27+0.35)+1\times(0.30+0.08)=1.62$

となる。

（１－２）　まとめる質問項目の値から，複合パラメータを算出する。

比較基準（全国，都道府県，市町村等）の複合パラメータと，分析対象の学校等についての複合パラメータを算出する。

$$Y_i = \frac{1}{\mathrm{m}}\sum_{i=1}^{m} X_i = \frac{1}{\mathrm{m}}\left(X_1 + X_2 + \cdots\cdots + X_{\mathrm{i}}\right)$$

ｍ＝複合させる基礎値の数

（１－１）で計算した質問項目の基礎値を，領域ごとに足して平均を出すことで，複数の質問項目の複合パラメータの値を算出できる。

なお，文部科学省の公表資料から全国及び各都道府県の複合パラメータの算出を行うことができる。

手順２　標準偏差を算出する。

各学校等は，教科に関する調査の標準偏差については，文部科学省から提供されている資料から知ることができるが，質問項目を複合したパラメータに関する標準偏差を知るためには，比較基準となる主体に算出してもらう必要がある。具体的には，全国のものであれば文部科学省，都道府県全体であれば当該都道府県教育委員会，市町村全体であれば当該市町村教育委員会で算出することになる。

質問項目に関する複合パラメータの標準偏差を算出するための具体的な手順を，以下の（２－１），（２－２）に示す。

（２－１）比較基準となる地域のすべての分析対象の複合パラメータの算出

（１－１）及び（１－２）の要領で，比較基準となる地域の域内すべての分析対象の複合パラメータを算出する。

（２－２）（２－１）で計算した複合パラメータから標準偏差を算出する。

$$\sigma = \sqrt{\frac{1}{n}\sum_{i=1}^{n}\left(Y_i - \overline{Y}\right)^2}$$

n＝比較基準（全国，都道府県，市町村等）の域内の分析対象（学校等）の数

$Y_i =$　分析対象の複合パラメータの値

$\overline{Y} =$　比較基準の複合パラ メータの値

参考に，全国を比較基準として，表１及び表２で示した「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する際に必要となる平均値と標準偏差を表３及び表４に示す。

表３　「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧（平成 19 年度全国学力・学習状況調査）

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Ⅰ	1	教科学力	国語 A	14.67	1.02	30.17	2.02
	2		算数／数学 A	15.58	1.35	25.74	3.29
	3		国語 B	6.17	0.95	7.17	0.82
	4		算数／数学 B	8.75	1.10	10.21	1.52
Ⅱ	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	2.91	0.19	2.93	0.18
	6		算数／数学への関心等	3.20	0.20	2.90	0.18
	7		総合的な学習への関心等	2.95	0.26	2.49	0.26
Ⅲ	8	規範意識・自尊感情	規範意識	3.44	0.16	3.36	0.14
	9		自尊感情	3.23	0.19	3.02	0.16
Ⅳ	１０	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	3.08	0.20	2.93	0.19
	１１		生活習慣	3.17	0.16	3.02	0.14
	１２		学習習慣	2.71	0.24	2.54	0.23

表４　「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧（平成 19 年度全国学力・学習状況調査）

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Ⅰ	１	教科学力	国語Ａ	14.67	1.02	30.17	2.02
	２		算数／数学Ａ	15.58	1.35	25.74	3.29
	３		国語Ｂ	6.17	0.95	7.17	0.82
	４		算数／数学Ｂ	8.75	1.10	10.21	1.52
Ⅱ	５	教科指導	個に応じた指導	1.46	0.27	1.42	0.28
	６		国語科の指導法	1.77	0.20	1.77	0.21
	７		算数／数学科の指導法	1.80	0.20	1.76	0.22
Ⅲ	８	学力向上	児童生徒の状況	1.90	0.25	1.87	0.29
	９		学力向上に向けた取組	1.45	0.17	1.46	0.17
Ⅳ	１０	学校運営	地域の人材･施設の活用	1.56	0.23	1.58	0.19
	１１		開かれた学校･学校評価	1.68	0.16	1.67	0.16
	１２		教員研修	1.85	0.17	1.75	0.21

手順３　データの標準化を行う。

手順１で求めた学校の複合パラメータの値と比較基準の複合パラメータの値，手順２で求めた標準偏差から，「全国学力・学習状況調査結果チャート」に用いる各領域のスコア Z を以下のとおり，算出する。

$$Z = \frac{Y_i - \overline{Y}}{\sigma}$$

σ=標準偏差

４）教科に関する各領域のスコアの算出

教科に関する調査結果の各領域のスコアについては，国語 A，B，算数／数学 A，B のそれぞれの平均正答率と，比較基準となる平均正答率がそのまま各領域のスコアになる。

例えば，ある学校の算数Ａの平均正答率が 75.0%で，基準とする都道府県内の学校の算数Ａの平均正答率が 70.0%，標準偏差が 4.2 の場合，

(0.75-0.70)÷4.2=1.2

となり，都道府県を基準とした場合の当該学校の算数Ａのスコア値は「1.2」と算出できる。

５）算出した各領域のスコアを組み合わせて「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する

２）で算出した質問項目に関する領域のスコアと，３）で算出した教科に関する領域のスコアを用いて，「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する。具体的には，「全国学力・学習状況調査結果チャート」の中心から，平均値との距離を一定とした円を引き，算出したそれぞれの項目の各領域のスコアを挿入して，「全国学力・学習状況調査結果チャート」が完成する。

（参考）

平成 20 年度調査に関する全国学力・学習状況調査結果チャートについて

平成 20 年度全国学力・学習状況調査に関する「全国学力・学習状況調査結果チャート［児童生徒］」及び「全国学力・学習状況調査結果チャート［学校運営］」については，以下の表１及び表２に示す項目の調査結果を基に作成しています。

また，参考に，全国を比較基準として，表１及び表２で示す「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する際に必要となる平均値と標準偏差を表３及び表４に示します。

表１　平成 20 年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート［児童生徒］」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校児童質問紙 対応領域・項目番号	中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語 A		
	2		算数・数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数・数学 B		
Ⅱ	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	(50)～(59)	(50)～(59)
	6		算数・数学への関心等	(61)～(70)	(61)～(70)
	7		総合的な学習への関心等	(45)～(47)	(45)～(47)
Ⅲ	8	規範意識・自尊感情	規範意識	(34)～(40)	(34)～(40)
	9		自尊感情	(5)～(8)	(5)～(8)
Ⅳ	１０	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	(41)～(44)	(41)～(44)
	１１		生活習慣	(1)～(4)	(1)～(4)
	１２		学習習慣	(25)～(28)	(25)～(28)

表２　平成 20 年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート［学校運営］」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校学校質問紙 対応領域番号	中学校学校質問紙 対応領域番号
Ⅰ	1	教科学力	国語 A		
	2		算数・数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数・数学 B		
Ⅱ	5	教科指導	個に応じた指導	(44)(45)(47)(48)	(44)(45)(47)(48)
	6		国語科の指導法	(51)～(56)	(51)～(56)
	7		算数・数学科の指導法	(58)～(61)	(57)～(60)
Ⅲ	8	学力向上	児童生徒の状況	(11)～(12)	(11)～(12)
	9		学力向上に向けた取組・指導方法	(21)～(29)	(21)～(29)
Ⅳ	１０	学校経営	地域の人材・施設の活用	(65)～(69)	(63)～(67)
	１１		開かれた学校	(84)～(86)	(82)～(84)
	１２		教員研修・教職員の取組	(87)～(90) (92)～(94)	(85)～(88) (90)～(92)

表３　平成 20 年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Ⅰ	1	教科学力	国語 A	11.71	1.48	24.97	2.07
	2		算数・数学 A	13.68	1.43	22.53	3.41
	3		国語 B	6.00	1.13	6.08	0.81
	4		算数・数学 B	6.61	1.05	7.33	1.28
Ⅱ	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	2.99	0.21	2.78	0.19
	6		算数・数学への関心等	3.20	0.20	2.88	0.18
	7		総合的な学習への関心等	3.05	0.27	2.64	0.28
Ⅲ	8	規範意識・自尊感情	規範意識	3.46	0.16	3.37	0.13
	9		自尊感情	3.24	0.19	3.00	0.15
Ⅳ	１０	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	3.09	0.18	2.95	0.17
	１１		生活習慣	3.44	0.16	3.37	0.14
	１２		学習習慣	2.75	0.26	2.47	0.24

表４　平成 20 年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Ⅰ	1	教科学力	国語 A	11.71	1.48	24.97	2.07
	2		算数・数学 A	13.68	1.43	22.53	3.41
	3		国語 B	6.00	1.13	6.08	0.81
	4		算数・数学 B	6.61	1.05	7.33	1.28
Ⅱ	5	教科指導	個に応じた指導	1.15	0.25	1.15	0.26
	6		国語科の指導法	1.77	0.21	1.78	0.21
	7		算数・数学科の指導法	1.77	0.24	1.73	0.24
Ⅲ	8	学力向上	児童生徒の状況	1.91	0.25	1.88	0.28
	9		学力向上に向けた取組・指導方法	1.68	0.14	1.71	0.14
Ⅳ	１０	学校運営	地域の人材・施設の活用	1.56	0.23	1.57	0.19
	１１		開かれた学校	1.85	0.21	1.83	0.22
	１２		教員研修・教職員の取組	1.94	0.12	1.87	0.17